

茶会事業・公益社団推進委員会

委員長名：川島 吉弘

副委員長名：宮本 泰三

委員名：鞍田 哲士、菅原 正純、鈴木 利満、渡邊 理恵

1) 事業報告

(I) 慈善茶会の目的を会員に理解して頂く為の事業

- (a) 内容：第40回慈善茶会の目的と内容を周知する事業の開催
- (b) 時期：2008年2月19日 19:00～21:00
- (c) 開催場所：鎌倉商工会議所301会議室
- (d) 参加者：会員27名 淡交会鎌倉支部青年部4名
鎌倉女子大学茶道部5名

(II) 「人を大切に思う気持ち」を持つ人を増やす為の事業

- (a) 内容：第40回慈善茶会の開催
- (b) 時期：2008年5月25日 6:00～19:00
- (c) 開催場所：大仏殿高德院
- (d) 参加者：会員42名、OB5名、お客様（茶券）553名、大仏殿高德院関係者38名、松林庵関係者15名、淡交会鎌倉支部25名、淡交会鎌倉支部青年部40名、鎌倉女子大学茶道部25名、鎌倉高校茶道部7名、七里ヶ浜高校茶道部5名、深沢高校茶道部5名、鎌倉ユネスコ協会15名、鎌倉女子大学ボランティア3名、世界のおもてなしブース25名、その他お客様（回廊）延べ約4000名

(III) 慈善茶会後の懇親会の開催

- (a) 内容：第40回慈善茶会後の懇親会の開催
- (b) 時期：2008年6月5日 18:30～20:30
- (c) 開催場所：鎌倉パークホテル
- (d) 参加者：会員22名、OB6名、大仏殿高德院 佐藤美智子様、淡交会鎌倉支部3名、淡交会鎌倉支部青年部4名、鎌倉女子大学茶道部5名、鎌倉ユネスコ協会2名、世界のおもてなしブース7名

(IV) 慈善茶会40周年に関する記念事業

- (a) 内容：慈善茶会40周年に関する記念活動
- (b) 時期：2008年5月25日、2008年6月5日
- (c) 開催場所：大仏殿高德院、鎌倉パークホテル
- (d) 参加者：第40回慈善茶会時700名、慈善茶会後の懇親会時50名

(V) 公益社団法人格取得に関する事業

- (a) 内 容：「公益認定の申請」に向けての準備並びに申請実務
- (b) 時 期：2008年1月～12月
- (c) 開 催 場 所：鎌倉市内及び近郊
- (d) 参 加 者：会員・入会希望者及び神奈川ブロック協議会内各地青年会議所メンバー

2) 感想

本年度、茶会事業・公益社団推進委員会は慈善茶会の開催と公益社団法人格取得の申請実務を行って参りました。一年間の委員会活動を行うにあたり「回帰・観照」のテーマに基づき、青年会議所の原点を見つめ直し、当会議所の最大の事業である慈善茶会をより公益性の高いまちづくり事業として確固たるものを目指して参りました。さらに本年の慈善茶会は記念すべき40回目という事もあり、例年以上に感謝の気持ちを持って活動にあたりました。

当委員会では、最近の社会は人を大切に思う気持ちが薄れていると考え、慈善茶会のテーマを「心に笑顔を～すべてはみんなのために～」と致しました。慈善茶会を開催するにあたり、2月例会では臨済宗建長寺宗務総長高井正俊様を講師にお迎えし、心に笑顔を作る意味、感謝の意味をご講演いただき、慈善茶会に向けてテーマを共有できたと考えております。

本年の慈善茶会は降雨に見舞われ、急遽お献茶式を回廊に移動するなどの変更が多々ありましたが、足元の悪い中を多くのお客様にお越しいただけた事は感謝の他に言葉が見当たりません。テーマに基づきお客様と接したことで、大きなトラブルが無かったのはメンバーをはじめご協力いただいた皆様のお陰あると考えて、ご来場のお客様にもその姿勢が十分に伝わったと考えております。

本年の慈善茶会では淡交会や学生の皆様に加え、より公共性の高い事業にするべく地域で活動されている団体の皆様にもご協力をいただき、回廊部分を使用して「世界のおもてなし」を体感できるブースを設けました。世界各国のお茶や茶菓を提供することで日本の文化のみならず、世界の文化の比較を一般のお客様にも体感していただきました。そして40回目の記念事業の一環として、理事長からの直筆の挨拶文とお土産をお持ち帰りいただき、さらに茶会という厳粛な雰囲気の中で憩いの場を設けコーヒーを提供すると共に過去の慈善茶会の写真を展示し、また皆様からいただいたご厚情をどのように活用しているのかをご報告するパネルを展示致しました。

公益社団法人格の取得は、サマーコンファレンスや関東地区フォーラムで開催されたセミナーへの参加、行政監督官庁主催の説明会に参加し、情報の収集と他LOMとの情報交換を行って参りました。その上で定款と各諸規定の変更案を作成致しました。変更案は公開委員会で会員の皆様に説明し、さらに総会で会員の皆様の決議を得るまでに至りました。また本事業は専門性を必要とすることから、委員会のみならず会員の皆様にもご協力をいただきました。当初は2008年12月1日の申請受付初日に書類を提出する予定でしたが、残念ながらその希望は叶える事ができませんでした。しかし結果として、年度内に申請業務を終えることが出来、安堵しているところです。

最後になりますが、とにかく当委員会の事業にご協力いただいた全ての皆様に感謝の気持ちで一杯です。また年間の最優秀委員会賞をいただくことができましたが、当委員会メンバーだけの力では受賞することはできませんでした。そして40回目の記念すべき年に慈善茶会の実行委員長として携わる事ができたことは光栄に思っております。藤井理事長をはじめ正副の皆様、田中担当副理事長、委員会メンバーをはじめ、会員の皆様、ご支援とご協力をいただきました全ての皆様に再度感謝を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。有難うございました。